

① 現地の状況やニーズなどの背景情報

フィリピンでは大腸癌、胃癌、膵癌の死亡率が高い一方で、がん診療医をはじめとする専門医が不足している。また、多くの島々から成る国土構造や交通インフラの整備不足により、国内の医療教育システム構築が十分に進んでいない状況である。

② 事業目的

早期診断システムの構築に加え、内視鏡や腹腔鏡手術で高度な技術を持つがん専門医の育成を目指す。

③ 事業の概要

日本の消化器癌の早期診断率は世界的に見ても非常に高く、また、内視鏡および腹腔鏡手術専門医制度によってその技術も卓越している。本事業では、九州大学病院の専門スタッフがフィリピン大学を中心に、医療スタッフの相互派遣を実施し、現地での指導やハンズオンセミナーを通じて技術の普及と向上を図る。

④期待される成果とその後の波及効果

本事業終了までの3年間で本邦の内視鏡専門医および内視鏡技術認定医と同等の知識と技術を有する消化器がん専門医を育成することを目指す。その結果、同国における消化器がん死亡率が改善する

